



I'ROM GROUP



第22期報告書

2018年4月1日▶2019年3月31日

トップメッセージ

グループの飛躍実現に向けた 変革と革新に挑み、更なる発展を目指します

平素はひとかたならぬご支援とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

医療業界においては、世界的に治療技術の目覚ましい発展が続いており、医薬品開発を取り巻く環境は大きく変化しています。がんや難治性疾患等の革新的治療法として期待されている再生医療は、その実用化に向けて臨床試験が世界の複数国で始まっています。また、がんを対象とした細胞治療が保険適用になるなど、患者様の新たな治療の選択肢が広がっています。

治療技術の発展による医療業界の変化への迅速な対応とグループの一層の発展に向け、当社グループでは、自社における医薬品・医療技術の開発促進に加え、海外への事業展開、設備投資ならびに人材育成等、戦略的な投資を続けています。

2018年12月には、SMO事業のグローバル展開への第一歩として、オーストラリアにおいて初めてとなるSMO事業を開始しました。また、先端医療事業における中国での展開を本格化すべく中国・香港に子会社を設立し、積極的な業務提携等を進めています。

さらに、iPS細胞等の細胞の培養・加工・保管に係る細胞バンク事業を開始し、事業拡大だけでなく、再生医療の実用化に向けた取り組みも推進しています。

2020年3月期においては、中期的な経営方針として掲げる「変革と革新」に引き続き挑み、飛躍の実現に向けてグループ全体で取り組んでまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 森 豊隆

● 企業理念

「明日への希望をつなぐ医療を目指して進み続ける」

● 中長期的な経営方針

「変革と革新」・「人材教育の徹底」により、
企業価値の向上を目指す

● 2020年3月期連結業績予想

売上高	13,000	百万円
営業利益	1,300	百万円
経常利益	1,300	百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	百万円

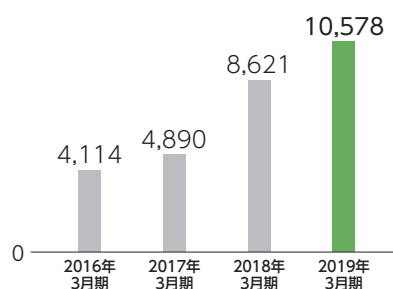
決算ハイライト



- ✓ SMO事業の伸張により、売上高10,578百万円(対前期22.7%増)
- ✓ 今後の事業拡大に向けた設備整備、体制強化等の投資を積極的に実施
- ✓ 剰余金の配当を実施(中間：普通配当10円、期末：普通配当10円の計20円)

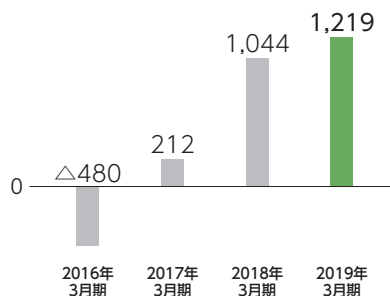
連結売上高

(単位：百万円)



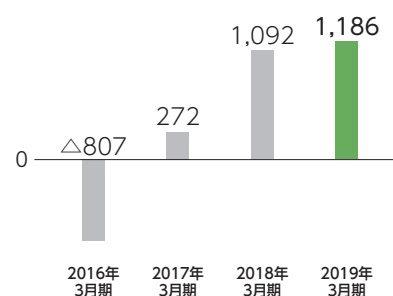
連結営業利益又は営業損失

(単位：百万円)

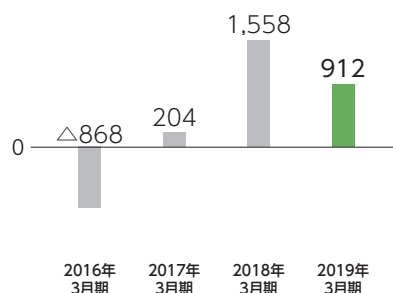


連結経常利益又は経常損失

(単位：百万円)

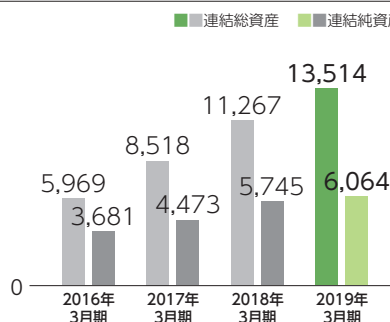


親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (単位：百万円)



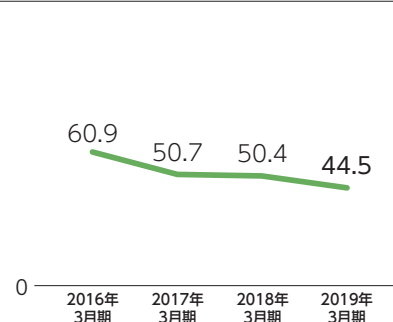
連結総資産／連結純資産

(単位：百万円)



自己資本比率

(単位：%)



セグメント別の状況

SMO事業 69.7%

売上高 7,374百万円

営業利益 2,303百万円

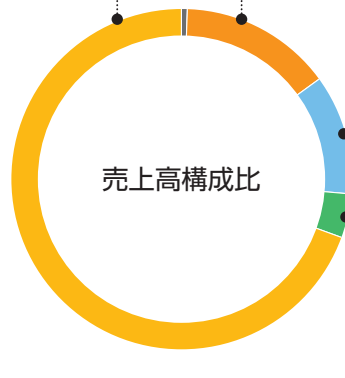
- 積極的な展開により支援疾患領域、支援地域、提携医療機関が拡大
- 注力領域である、がんや腎領域の支援実績が堅調に推移

先端医療事業 4.0%

売上高 423百万円

営業利益 △29百万円

- iPS細胞作製技術のライセンスアウトが拡大
- 細胞バンク事業「iCell Bank」を開始



CRO事業 14.5%

売上高 1,534百万円

営業利益 △2百万円

- 受託増に対応すべくオーストラリア子会社CMAXの施設拡大を実施
- 国内アカデミアの臨床試験や再生医療製品等の試験支援数が拡大

メディカルサポート事業 11.5%

売上高 1,219百万円

営業利益 76百万円

- クリニックモール事業が堅調に推移
- 早期臨床試験実施施設確保を目的とした医療機関の土地、建物を取得



SMO事業

SMO (Site Management Organization : 治験施設支援機関) は、医療機関と契約し、関連法規に基づき適切かつ円滑な臨床試験が迅速に実施できるよう様々な業務を支援しています。国内SMOのパイオニアであるアイロムグループは、2,000を超える医療機関と提携し、新薬を中心として早期臨床試験から製造販売後臨床試験までの幅広い疾患領域に対する一貫した支援を行っています。

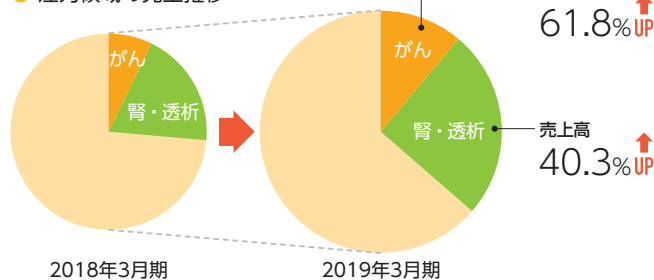


成長戦略

日々発展する医療技術と臨床試験を取り巻く環境の変化に対応する 高品質なサービスの提供を推進します

支援地域や医療機関との提携の拡大に加え、医薬品開発ニーズの高い、がんや腎疾患を中心とした支援実績が伸張しています。対象疾患や治療法の複雑化・多様化など、日々変化する医薬品開発の環境に迅速に対応すべく、全国各地で積極的な業容拡大を進めています。また、高品質なサービス提供を継続するため、人材教育の徹底を中期的な戦略の大きな柱の一つとして取り組んでいます。

● 注力領域の売上推移

2020年3月期の
取り組み

- 更なる支援地域の拡大推進により、基幹病院との提携を強化し収益を拡大
- 人材教育の徹底により、難易度の高い疾患に対する試験にも対応できるプロフェッショナルを育成



CRO事業

CRO (Contract Research Organization : 開発業務受託機関) は、医薬品・医療機器・再生医療等製品の治験を含む臨床研究等に関わる製薬企業等の業務を代行・支援する受託機関です。当社グループのCRO事業では、国内およびオーストラリアにおいて臨床試験実施施設を保有し、開発の早期段階から製薬企業等の医薬品開発を支援しています。



成長戦略

継続的な品質向上に努め、 フルサポート早期臨床試験実施施設としてのポジションを確立します

グループ傘下の臨床試験実施施設においては、サービス品質と実績が評価^(※)され、受託が堅調に推移しており、増加傾向にあるアジアスタディやグローバル試験に対応するため、グループ施設の連携を強化しています。国内においては、田無病院(東京都西東京市)の土地・建物の取得により施設拡大を図り、増加する試験受託に迅速・柔軟に対応する環境を整えています。

※オーストラリアの臨床試験実施施設CMAXIは、医薬品開発における国際的な貢献やサービス品質が評価され、南オーストラリア州ビジネス・サービスアワード2018を受賞。

2020年3月期の
取り組み

- 日本・オーストラリアの連携強化により、グローバル試験の受注を拡大
- 製薬企業・バイオベンチャー・アカデミアに対する再生医療等製品などの開発支援の拡大

オーストラリア初となるSMO事業を開始

2018年12月、アイロムグループは南オーストラリア州の開業医師会GP Partnersと提携し、『GP IROM』としてオーストラリアにおいて初めてとなるSMO事業を開始しました。

近年、オーストラリアでは、早期段階から患者様を組み入れた臨床試験の実施や大病院以外から被験者となる患者様を組入れるニーズが高まっています。アイロムグループでは、GP Partnersに所属する1,700名を超える医師・クリニックと連携し、迅速な臨床開発を通じた医療の発展に貢献していきます。

GPIROM™ Australian GP Based Clinical Trials

するためのあらゆるプロセスに寄与し、「明日への希望をつなぐ医療」を目指し進み続けています。



先端医療事業

先端医療事業を推進する㈱IDファーマでは、優れた遺伝子導入技術と開発力を活かし、遺伝子治療や再生医療等の早期実用化に向けて、医薬品や医療技術の開発に取り組んでいます。ベクター技術を用いた遺伝子治療製剤等の研究開発を推進するとともに、GMPベクター製造施設・細胞培養加工施設においては、再生医療等製品などの受託製造を進めています。



成長戦略

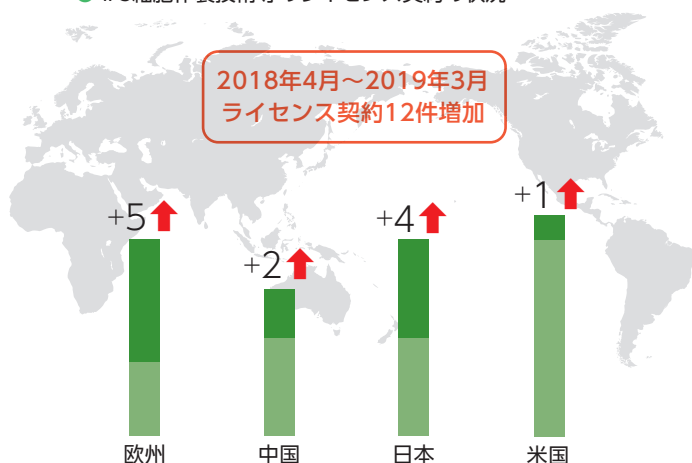
先端医療の実現へ、事業基盤の拡大と飛躍に向けた挑戦を推進します

基盤技術として保有するセンダイウイルスベクターをベクターの世界標準とするため、同技術を用いたiPS細胞作製キット「CytoTune®-iPS」を全世界に向けて販売するとともに、製薬企業や研究機関に対し、iPS細胞作製技術等のライセンス活動を積極的に行っています。ライセンスアウトやキット販売数は順調に伸張しており、日本・欧米を中心に、企業や研究機関による同技術を用いた研究開発が活発化しています。

GMPベクター製造施設・CPCにおける受託製造も順調に実績を積み上げており、医療機関において免疫細胞治療に用いる細胞の培養加工の受託も開始しています。

さらに、フランチャイズ・システムによる細胞バンク事業『iCellBank (アイセルバンク)』を開始し、先端医療をより身近なものにしていくための取り組みを進めています。

● iPS細胞作製技術等のライセンス契約の状況



2020年3月期の
取り組み

- コア技術であるセンダイウイルスベクターのさらなる普及とパイプラインの推進
- 細胞培養加工・保管事業を通じた細胞治療分野における取り組みを推進



メディカルサポート事業

メディカルサポート事業では、開発事業者や不動産会社などと連携して、駅からのアクセスや地域の医療機関の需要など、様々な条件を満たすクリニックモールを開設しています。また、開設後の運営管理にも力を入れており、クリニックモールでの開業を検討する医師に対して開業支援を手がけるとともに、開業後の医療機関に臨床試験を紹介するなど、その経営を多角的に支援しています。



成長戦略

クリニックモールの運営により 安定した収益を確保します

メディカルサポート事業においては、引き続きクリニックモール等の運営により安定した収益の確保に努めます。当期においては、医療機関の不動産取得により臨床試験実施施設を確保するなど、グループ各事業の施設整備を行うことで、各事業の展開促進をサポートします。



2020年3月期の
取り組み

- 新規施設の適切な整備・運営の推進
- グループ各社の施設整備を適切に行い、グループ各事業の円滑な展開を支援



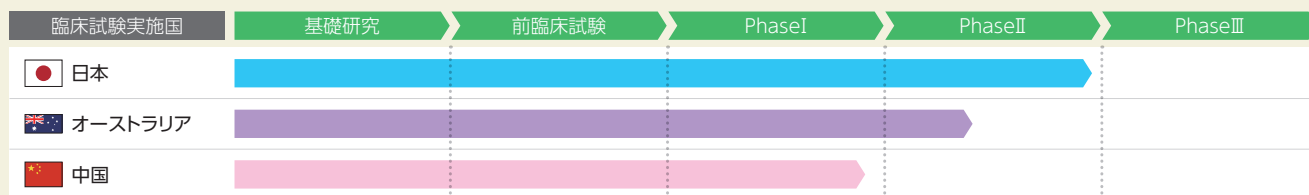
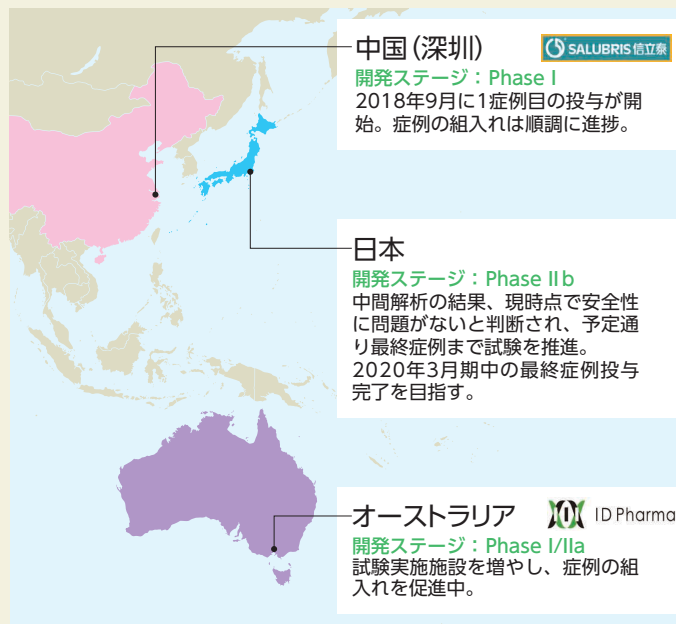
1

虚血肢治療製剤 (DVC1-0101) 開発状況

IDファーマが開発を進めている虚血肢治療製剤は、現在、日本・オーストラリア・中国において臨床試験を推進しています。日本においては九州大学が、中国においては導出先であるSalubris社が試験を実施しており、自社で進めるオーストラリアを含め、各国での試験は安全性等に配慮しながら順調に進んでいます。引き続き早期上市に向けた取り組みを進めてまいります。

虚血肢とは? 動脈硬化などにより、下肢の血管の内腔が狭くなり、血液の流れが悪くなる結果、下肢疼痛、歩行困難からやがて下肢の潰瘍や壊死にいたる疾患です。

虚血肢治療製剤 (DVC1-0101) とは? センダイウイルスベクターに治療遺伝子 (FGF-2) を搭載し投与することで、下肢に新しい血管を作り、血行を再開させ、症状を改善します。



2

中国事業展開を本格化

中国の医薬品市場は急速な拡大を続けており、再生医療等製品をはじめとした先端医療技術の開発が国を挙げて進められています。2017年には、中国における新薬承認プロセスに関する法律が改正され、中国はこれまで以上にグローバルな医薬品開発の重要拠点となることが予想されます。

アイロムグループは、中国製薬企業等との連携強化による中国事業の更なる拡大を目的として、2018年2月に中国・香港に『愛醫隆有限公司 (I'ROM LIMITED)』を設立しました。

2019年4月には上海を拠点に細胞培養加工・保管等の事業を行うShanghai Cell Therapy Group Co., Ltd. (上海細胞治療集団) と提携。アイロムグループの基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いたiPS細胞の作製・保管事業など、中国を皮切りに世界の細胞治療市場を視野に先端医療分野の事業拡大を目指します。



会社の状況 (2019年3月31日現在)

会社概要

会社名	株式会社アイロムグループ
設立年月日	1997年(平成9年)4月9日
資本金	3,517百万円
本社所在地	〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
連結従業員数	817人(臨時従業員を含む)
連結子会社	株式会社アイロム 株式会社エシック 株式会社アイクロスジャパン CMAX Clinical Research Pty Ltd 株式会社IDファーマ 株式会社アイロムPM (他12社)

経営体制 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長	森 豊隆	取締役	椿 敦
取締役副社長	朱 亜峰	取締役	小島 修一
取締役	原 寿哉	監査等委員	
取締役	松島 正明	取締役	渡辺 潔
取締役	犬飼 広明	社外取締役	佐々木秀次
取締役	深瀬 広幸	社外取締役	高橋 壮志
取締役	菊岡 正芳	社外取締役	小駒 皆子
取締役	加藤 親明		

株主メモ	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。 http://www.iromgroup.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子 公告ができない場合は、日本経済新聞 に掲載いたします。

株式の状況

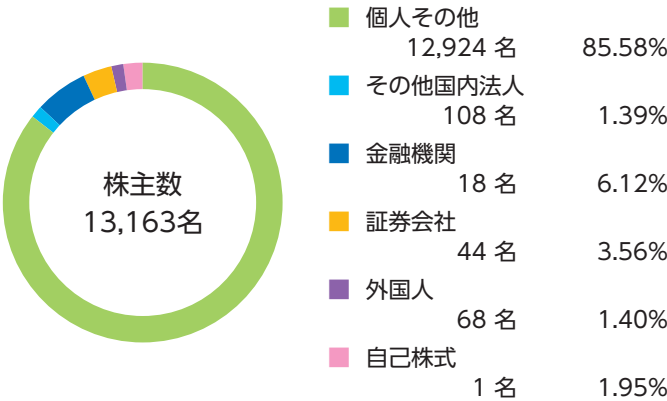
発行可能株式総数	37,281,680株
発行済株式の総数	11,711,865株
株主数	13,163名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	4,754,250	41.40
森 利恵	825,000	7.18
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	146,500	1.28
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口5)	142,300	1.24
三菱UFJモルガン・スタンレー証券 株式会社	103,100	0.90
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	97,100	0.85
渡邊 定雄	93,000	0.81
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口2)	88,200	0.77
森 龍介	75,000	0.65
森 博和	63,400	0.55

(注) 持株比率は、自己株式(228,395株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布 ※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。



ホームページのご案内

当社のホームページでは、各事業のより詳しい内容や当社の最新の情報を掲載しています。また、IR情報のページでは、財務ハイライトや開示書類をご確認いただけますので、是非一度ご覧ください。

<http://www.iromgroup.co.jp/>

アイロムグループ 検索



● 当社ホームページ

● IR情報